

力学系数学

6

$I = [a, b]$ を有界閉区間とする ($a < b$). I における r 回連続的微分可能な関数の全体を $C^r(I)$ で表す. ただし, $r = 0, 1, 2, \dots$. 特に, $r = 0$ のときには, $C^0(I)$ を単に $C(I)$ と書く. いま, $u \in C^2(I)$ に対して,

$$L[u] = \frac{d}{dx} \left(p(x) \frac{du}{dx} \right) + q(x)u$$

で微分作用素 L を定義する. ただし, $q \in C(I)$, $p \in C^1(I)$ かつ $p(x) > 0$ ($x \in I$). ここで, $u, v \in C^2(I)$ に対し

$$\int_a^b (uL[v] - vL[u]) dx \quad (*)$$

を考える. 次の (i) に答えよ.

(i) (*) は u, v, u', v' の境界値 ($x = a, b$ での値) だけに依存することを示せ.

いま, 写像 $C^2(I) \rightarrow \mathbb{R}^4$ を, $w \in C^2(I)$ に対して

$$w \mapsto \mathbf{w} = \begin{pmatrix} w(a) \\ w'(a) \\ w(b) \\ w'(b) \end{pmatrix}$$

で定義すると, この写像は明らかに全射である. このとき, (*) は $\mathbb{R}^4 \times \mathbb{R}^4$ の双 1 次形式 $\omega(\mathbf{u}, \mathbf{v})$ の形に書ける. 以下の (ii), (iii) に答えよ.

(ii) $\omega(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = -\omega(\mathbf{v}, \mathbf{u})$ を示せ.

(iii) すべての $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^4$ に対して $\omega(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = 0$ ならば, $\mathbf{v} = 0$ となることを示せ.

$x_j, j = 1, 2, 3, 4$, を \mathbb{R}^4 のデカルト座標とする. \mathbb{R}^4 の 2 次元線形部分空間 E を

$$\lambda_1 x_1 + \lambda_2 x_2 = 0, \quad \mu_1 x_3 + \mu_2 x_4 = 0, \quad (\lambda_1, \lambda_2) \neq (0, 0), \quad (\mu_1, \mu_2) \neq (0, 0) \quad (**)$$

で定義する. 以下の (iv), (v) に答えよ.

(iv) すべての $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in E$ に対して, $\omega(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = 0$ の成り立つことを示せ.

(v) 特に, $p(a) = p(b)$ のとき, (**) 以外に, \mathbb{R}^4 の 2 次元線形部分空間 E' で, すべての $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in E'$ に対し $\omega(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = 0$ となるような E' の例を与えよ.